

「稲とアガベ株式会社」への融資支援について

～酒粕をマヨネーズにする食品加工所の新設事業を秋田銀行と日本政策金融公庫で支援～

株式会社秋田銀行（頭取 新谷 明弘）は、日本政策金融公庫秋田支店農林水産事業（以下、「日本公庫」という。）とともに、稲とアガベ株式会社（代表取締役 岡住 修兵）が男鹿市で新たに立ち上げる食品加工事業に対し、農業経営基盤強化資金（スーパーL資金）を活用した融資支援をしましたので、お知らせいたします。

当行と日本公庫は、今後も相互に連携して地域経済の活性化に努めるとともに、農業を起点とした新たな事業にチャレンジする農業生産者の皆さまへの総合的な支援を推進してまいります。

記

1 稲とアガベ株式会社について

当社代表は、秋田県内にて酒造りの修行を積み、農薬を使用しない米作りに従事した経歴を持ちます。「田んぼから醸造まで無添加」をコンセプトに、無肥料・無農薬の自然栽培米を生産し、原材料の特徴を生かした完全無添加のお酒を造るため起業しました。

当社は、旧JR男鹿駅舎を改修のうえ醸造所を開設し、輸出用清酒やどぶろく、新ジャンルの酒類などの製造に取り組んでいます。また、男鹿市の観光振興を目的として、醸造所にレストラン「土と風」を併設するなど観光拠点を整備し、地元男鹿産の食材を中心とした料理や自社のお酒を提供しています。

2 支援事業内容

お酒を造る工程で生まれる酒粕などから、新たな価値を生み出す商品へ変える食品加工場を新設します。加工食品の第1弾として、自社の酒粕を使用したマヨネーズ風調味料「発酵マヨ」の製造・販売を計画しています。

食品加工場は、旧男鹿駅近くの施設を改修し2023年4月に開設する予定です。今後、地元男鹿市をはじめとした地域の果樹農家と連携し、地域のブランディング向上に資するフルーツバター生産にも取り組んでいきます。

3 融資額

49百万円

(以上)



SDGs (Sustainable Development Goals)

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標であり、2030年までに解決すべき世界的優先課題17目標と目標を達成するための169のターゲットが示されています。

【参 考】

1 当社概要

| | |
|-------|----------------------|
| 会社名 | 稲とアガベ株式会社 |
| 代表取締役 | 岡住 修兵 |
| 所在地 | 男鹿市船川港船川字新浜町 1 - 2 1 |
| 資本金 | 2 百万円 |
| 事業内容 | 酒米生産、酒類製造・販売、レストラン経営 |

2 投資計画概要

| | |
|------|-------------------------------|
| 施設内容 | 食品加工場 |
| 施設名称 | SANABURI FACTORY (サナブリファクトリー) |
| 所在地 | 男鹿市船川港船川字栄町 6 - 2 |
| 総事業費 | 5 4 百万円 |

3 事業内容

- (1) 自社の酒粕を使用したマヨネーズ風味調味料「発酵マヨ」の製造・販売



お酒を造る過程で出てくる酒粕は、優れた栄養成分がある一方で、活用方法に課題がある。



酒粕を主原料とする植物性のマヨネーズ風味調味料「発酵マヨ」を製造・販売。酒粕が卵黄等動物性食材不使用の環境負荷の低い代替食品に生まれ変わる。

- (2) 食品加工場の内装イメージ図



(以 上)